



隠岐の「すごい」を世界へ！

このたび隠岐諸島が世界ジオパークネットワークに加盟。
いざ、大地を愛するまちおこし！



世界に誇れる隠岐 大切な『宝島』

去る9月9日、韓国の済州島で開催された第3回アジア太平洋ジオパーク大会において、隠岐諸島の世界ジオパークネットワークへの加盟が認定されました。国内では、洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島、山陰海岸、室戸に続く6番目の加盟となりました。

ジオパークとは、地層や岩石、火山地形など価値ある地質遺産を持つと同時に貴重な生態系や豊かな伝統文化などを総合的に体験できる、「大地の公園」を意味します。隠岐は、ユーラシア大陸の一部だった時代、湖（現在の日本海）の底だった時代、火山活動で海底から隆起して浸食と堆積を繰り返していた時代などさまざまに形を変えながら、約1万年前（縄文時代）に現在のようになりました。そのように大陸から島へと姿を変えてきたことの証拠となる現象（岩石や植物分布など）を随所で観察できることが、隠岐世界ジオパークの最大の特徴です。

山内道雄町長は記念セレモニーの挨拶で、「我々の隠岐が地形・地質とも世界に誇れるものであると認められて嬉しい。今が出発のときだ。世界ジオパークだからといってそれだけで観光客が来るわけではない。この稀少な『宝』をいかに発信し、後世に引き継ぎ守っていかけるか。海士らしいおもてなしの心を基本として、その中でジオパークを活かしていきたい」と、これからの活動への意欲を語るとともに、昔から島に根付く温かい「おもてなしの心」をこれからも大切にしようと呼びかけました。



日本ジオパーク隠岐大会

タケムラレポート

祝



出向中の竹村です

10月15日、日本ジオパーク全国大会が隠岐の島町で開催され、約400人の関係者が一堂に会しました。ジオパークの在り方や隠岐の歴史・文化を題材にした基調講演が行われたほか、「無形文化財のような一人の暮らし」に関する題材の活かし方、ジオパーク活動（フィールドワーク、ジオツアー、学習会等）の目的の明確化、ガイドの養成について等の意見を交換する分科会が行われました。

この全国大会を通じて、世界ジオパークに認定された隠岐が特別な地域であることを再確認できたほか、島後を巡り、各所のいわれや由来を聞くことで、身近な場に多くの歴史があり様々な条件が重なって今の姿があるということを学びました。



(上)新規加盟地域の代表者へ認定証を手渡す日本ジオパーク委員会の尾池和夫委員長。(下)夜の交流会

自分は協議会の一員として、世界ジオパークネットワーク加盟を目指して手探り状態で仕事をしてきました。去年保留になった経緯もあり、今回の加盟認定は大変嬉しく、このための仕事ができたとを誇らしく思っています。

協議会での経験を活かし、来年の春に海士町役場へ戻ってからは隠岐世界ジオパーク活用のための情報発信に取り組みたいです。まずは、町内の多くの人にジオサイト（ジオパークの見どころ）を知ってもらうために、それらの由来や歴史に触れる学習会を開いたり、あまコミュニティチャンネルを使って世界に認められた隠岐のどこがすごいのか、海士町のジオサイトの特徴などの解説を行っています。

(隠岐ジオパーク推進協議会 竹村昭平)

『守りながら活かす』 何よりもまず、知るって！

ジオパークには、その「保全・保護」と「活用」（観光等による持続的な経済発展）の両方が求められています。大前提となるのはやはり、守ることです。

海士町文化財保護審議委員の深谷治さん（NPO法人隠岐しぜんむら代表）によると、世界的に貴重な隠岐独自の生態系は、離島という「小さな土地」だからこそ維持されてきたものであり、その小ささゆえに、わずかな変化が島全体の環境に影響を及ぼしてしまうそうです。「隠岐だけに生息する稀少な生物たちは簡単に消えてしまう危険性が高い。ここに暮らす私たちは、そのような生態系の状態をきちんと把握して守っていく使命を負っています。現状では調査が追いついていません。きめ細かな調査と研究を進めていく仕組み作りが課題です」（深谷さん）

調査・研究だけではなく、地元の方々の理解と協力が欠かせません。海士町のジオパーク担当窓口である教育委員会（教育総務課）では、地元民に向けたガイドブックの作成や体験型の勉強会、ガイド養成講座などを行うことで、

ジオパーク活動の担い手を着実に育成していく予定です。また学校教育でも、ジオパーク関連要素を学習プログラムに自然に盛り込んでいけるよう、環境省への働きかけや島根大学との連携模索を始めたところです。

教育総務課の濱見敏明課長は、「隠岐世界ジオパークについては、観光振興よりもまずは教育面でのアプローチが重要だと思。世界が認めた隠岐の素晴らしさを守り伝えていくためにも、自分たちが地元の価値をしっかりと知ることがすべてのスタート。今回の世界認定を、地域への誇りや地元愛をさらに高めるチャンスととらえて、皆さんが楽しく正しく隠岐のことを理解・体験できるように、教育委員会からいろいろと仕掛けていきます」と話しています。



視察団に明屋海岸の説明をする、島前高校地域創造コースの3年生たち。「ジオパーク」をきっかけに地元愛もアップ！

教育総務課 【Tel】2-1222